

自立活動の部屋 ～かがやき自立活動通信～

令和2年2月28日



埼玉県立草加かがやき特別支援学校 自立活動専任



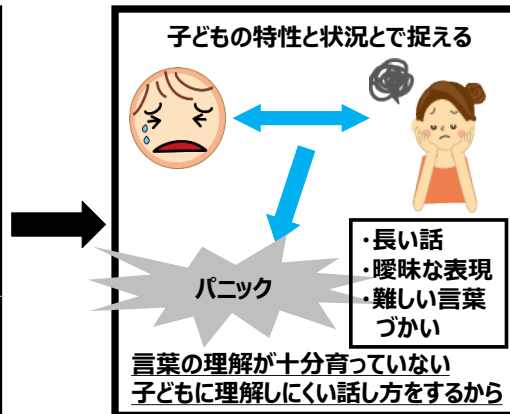
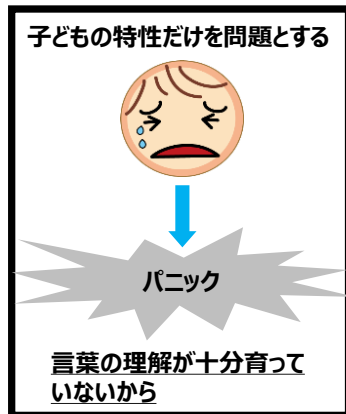
いよいよ2月も末となり、今年度のまとめの時期を迎えています。卒業学年では、卒業式の練習が佳境に入っています。残された学校生活を健康に充実して過ごすためにも、体調管理にはより一層配慮していけるとよいと思います。

今回は、「子どもの行動を理解するための考え方と支援」をテーマに、改めて子どもとの関わり方について考えていけたらと思います。

応用行動分析学とは

引用・参考文献：野呂文行（2006）園での「気になる子」対応ガイド，ひかりのくに。

- 人の行動を個人と環境との相互作用の中で考え、行動の原因や意味を探っていく。
- 行動の前後の出来事に注目することで人の行動を変える、新しい行動を教える、不適切な行動をなくすなどしていく。

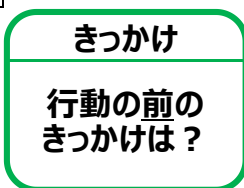


子どもの問題となる行動の原因を誰かのせいにするのではなく、環境設定や周りの関わり方を工夫することが支援のポイントとなる。

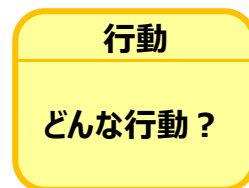
子どもの行動を理解する枠組み

引用・参考文献：井上雅彦（2015）家庭で無理なく対応できる困った行動，学研。

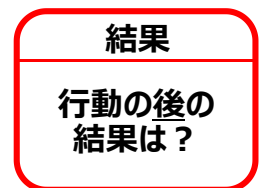
- 行動の後によいことが伴えば、行動は増える。
- 行動の後によいことが伴わなければ、行動は減る。



いつ・どこで・誰と・何をしている状況？



どんな行動をした？



どんな対応をした？周囲の状況は？

行動の起こりやすさに影響を及ぼす要因

- 環境的な要因：気温、騒がしさ、人の多さ、明るさ など
- 社会的な要因：関わる人の存在（家族・教員・友だち）、注目の度合い、人が変わる など
- 健康上・医療上・個人的な要因：病気、アレルギー、生理痛、疲労、空腹、薬の服用 など
- 日課・支援方法の要因：日課変更、難しい課題、課題に変化がない、ほめられない、理解しにくい話し方、選択機会がない など

※子どもの行動を理解する中で、このような要因も考慮しましょう。



引用・参考文献：Demchak,M.A.and Bossert,K.W. (2004) 問題行動のアセスメント, 学苑社.

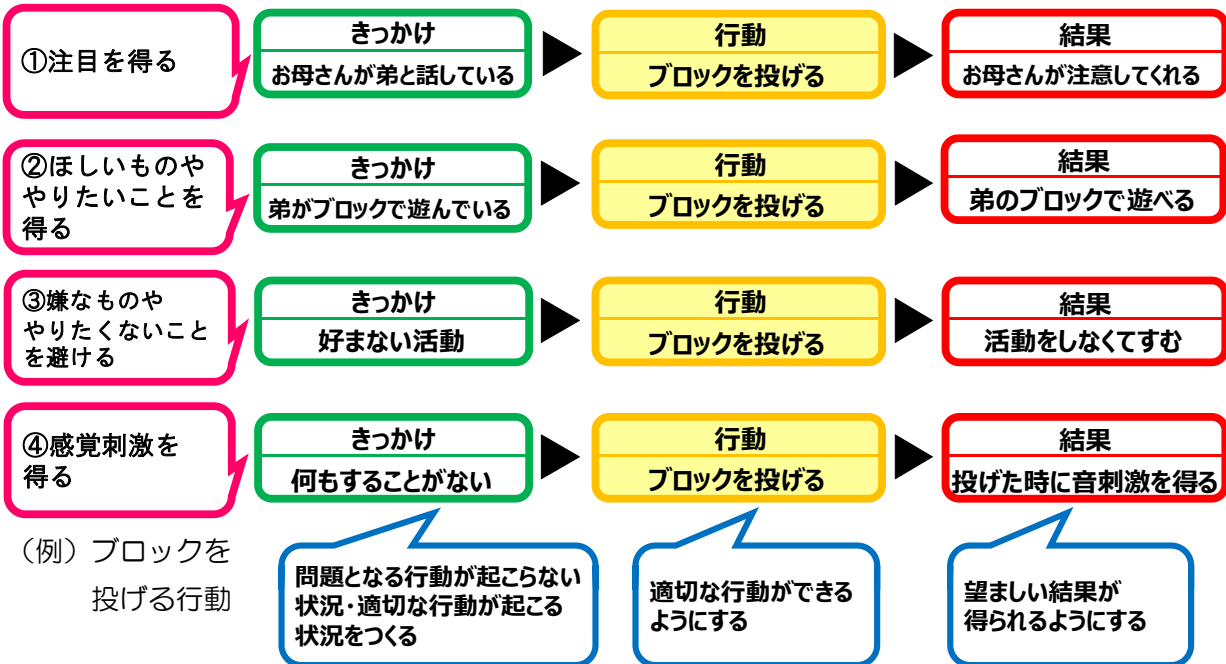
問題となる行動には理由や意味がある

- ①注目を得る：自分を見てもらいたい、人と関わりたい
→「私がしているのを見て」「私と遊んで」「私も仲間に入りたい」
- ②ほしいものややりたいことを得る：ほしい物を手に入れたい、望む活動をしたい
→「あの人が持っているものがほしい」「お腹が空いた」「外で遊びたい」「もっと音楽を聴きたい」
- ③嫌なものややりたくないことを避ける：望まない状況を終わりにしたい、避けたい
→「これは難しい」「これはやりたくない」「助けてほしい」「休けいしたい」「一人にしてほしい」
- ④感覚刺激を得る：感覚刺激(音や身体の揺れなど)を得たい
→「これをやるのが好き」「これをやると気持ちいい」



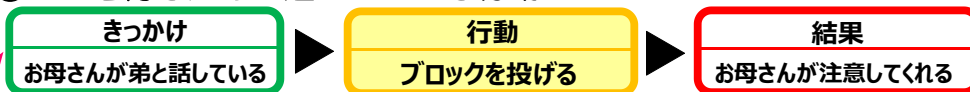
引用・参考文献：Bambara,L.Mand Knoster,M. (2004) プラス思考でうまくいく行動支援計画のデザイン, 学苑社.

行動は同じだが、行動の前後の状況で行動の理由や意味が異なる



起こりがちな問題となる行動への支援方法の例

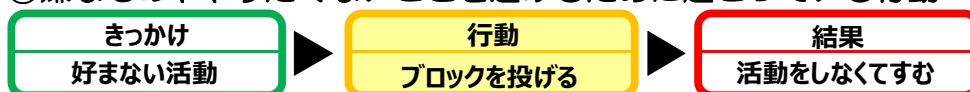
①注目を得るために起こっている行動



- ・ブロックを投げた時に、お母さんが反応しないようにする
- ・「お母さん遊ぼう！」などと伝えて、お母さんと遊ぶようにする
→「遊び」の写真カードをお母さんに渡す、お母さんの肩をたたくなど、子どものもつ手段で伝えられるようにする
- ・日頃から注目できるような機会を意図的に設けて関わるようにする



③嫌なものややりたくないことを避けるために起こっている行動



- ・ブロックを投げた時に、お母さんが反応しないようにする
- ・活動を選択する機会を設けて「この活動がいい！」などと伝えるようにする
- ・活動の難易度を下げるようにする
- ・「手伝って！」などと伝えて、一緒に活動するようにする

一緒にやろう！

手伝って！

